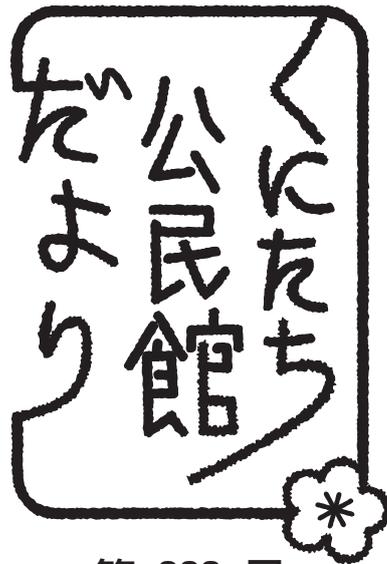


国立市公民館・NHK 学園高等学校共催【講演とシンポジウム】

若者の生きる力を育む 家庭・教育・地域の役割

—不登校・ひきこもりの理解と支援— **参加者募集**



第 660 号
2015年2月5日
(平成27年)

いま、国立市公民館とNHK学園を中心に関係諸機関や地域・家庭が連携して、不登校やひきこもりなどの課題を抱える子ども・若者を支えるネットワークづくりが少しずつ広がっています。

国立市公民館では、平成25年度より文部科学省の委託を受け、「自立に課題を抱える若者の社会参加支援事業」を開始し、若者の社会参加や学習活動を援助しています。

また、東京本校が市内にあるNHK学園高等学校は、「いつでもどこでも、だれでも」学べる広域通信制普通科高等学校として、さまざまな環境で学ぶ生徒と共に歩んできました。近年は、文部科学省の研究開発学校に指定され、多くの不登校経験のある若者を高等学校卒業に導いています。

不登校やひきこもりなどで本人や家族が悩みを抱え込まないために、学校や地域には何が求められ

発行
国立市公民館
〒186-0004
国立市中1-15-1
TEL 042-572-5141
FAX 042-573-0480
休館日：毎週月曜日

ているのか。今回は、公民館とNHK学園が共催で、家庭・教育・地域それぞれの役割と連携を考える「講演とシンポジウム」「個別相談会」を開催します。ぜひ関心をもっている多くの方にお越しくださいと思います。

とき 3月14日(土)
昼1時半～4時半

ところ NHK学園東京本校
(国立市富士見台2-36-2)

定員 150名 参加費無料。

申込 住所・氏名(ふりがな)、電話番号、「個別相談会」参加希望の有無を必ず明記し、下記のいずれかの方法でお申し込みください。
■はがき：〒186-0004 国立市中1-15-1 国立市公民館
【講演とシンポジウム】担当

■電話：(572) 5141
■FAX：(573) 0480
■メール：a20@whi.m-net.ne.jp



NHK解説委員・早川信夫さん

第1部 講演

「NHK解説委員が読み解く！
大人になれないことも私たち家庭・教育・地域の役割」
講師：早川信夫※NHK解説委員。
ニュース解説「時論公論」(月～金曜日夜12時)などに出演。著書(共著)に『これならわかる教育改革1・2』(中央出版)など。

第2部 シンポジウム

「若者の育ちを支える地域ネットワーク(「生きやすい」社会をつくるために)」
コーディネーター：早川信夫
シンポジスト：たちかわ若者サポートステーション、NHK学園、国立市教育センター、国立市公民館の職員がそれぞれの立場から役割と連携について語り合います。

※希望者のみ、4時半から各支援機関職員・教員が対応する「個別相談会」を行います。お気軽にご相談ください。

国立駅南口から徒歩約18分
バス約5分(4番のりば乗車)「国立高校前」下車徒歩約3分
谷保駅から徒歩約8分



公民館で3つの講座を同時開催します！

分科会方式

国立市公民館の1階に、「喫茶わいがや」という喫茶店があるのをご存知でしょうか。1981年にオープンした「喫茶わいがや」は、しょうがいしゃと共に働き活動する喫茶コーナーの先駆けと言われています。その後、しょうがいしゃの働く場としての喫茶店は全国に広がり、運営団体や関係者が学びあい交流する「全国喫茶コーナー交流会」が開催されてきました。このたび、27回目を迎える「全国喫茶コーナー交流会」(同実行委員会主催)が国立市公民館などを会場に開催されることになりました。そこで、国立市公民館では、若者やしょうがいしゃが働き、地域に参画する市内の喫茶や団体の取り組みに学ぶ3つの分科会を企画しました。どなたでも参加できますので、お気軽にお申し込みください。

とき 2月21日(土)
 昼1時半～4時半

※3つの分科会の開始・終了は同日同時刻です。参加希望の方は、いずれかを選んでお申し込みください。各分科会、申し込み先着順です。

申込先 2月6日(金)朝9時～
 公民館 ☎ (572) 5141

第2分科会

助言者 平野 和弘
 (Moonlight Project 代表)

ゲスト 藤倉 直美
 (「HIBIKI Cafe」スタッフ)
 柳 倫之
 (「喫茶わいがや」スタッフ)

ところ 公民館 3階講座室 定員 25名

この分科会では、さまざまな背景をもつ若者たちが運営に携わるカフェの事例を取り上げます。さまざまな事情がありながら埼玉県浦和商業高校定時制に通っていた若者たちが元教師と共につくりあげた埼玉県桶川市の「HIBIKI Cafe」。しょうがいしゃと共に活動を続けてきた若者たちが運営する国立市公民館内の「喫茶わいがや」。

それぞれのカフェは経緯こそ違いますが、現代の若者たちが抱える「生きづらさ」を越えていく「居場所」であり、社会や地域とつながる活動拠点になっています。2つの場に関わる若者の話をもとに、若者たちはカフェをどのような場にしてきたのか、その魅力や可能性についてみなさんと考えます。

若者たちが「居場所」にしていく「カフェの可能性」
 若者×居場所×かわる

第1分科会

コーディネーター 渡辺 康子
 (飲食専門誌ライター)

ゲスト 日高 雅也
 (「Cafe ここのたの」店長
 / NPO 法人くにたち富士見台
 人間環境キーステーション)

ところ 公民館 地下ホール 定員 35名

一橋大学の学生が中心となって、地域の人々の拠り所になるようなお店作りに取り組み、国立市富士見台の商店街でオープン12年目を迎える「Cafe ここのたの」。心地良さを提供すると同時に地域活性化やまちづくりにも貢献すると期待されるコミュニティカフェを長く続けるためには、何が必要なのでしょうか。

「Cafe ここのたの」で店長をつとめる日高さんに、どのようなコミュニティカフェなのか、学生と市民が協働するメニューづくりから運営方法までをお話いただき、参加者同士で語り合います。

地域で愛され続けるコミュニティカフェとは？

「コミュニティ×ビジネス」



国立市富士見台の商店街にある「Cafe ここのたの」

精神しょうがいをもって地域で暮らすということ

はたらく×つながる×支えあう

第3分科会

コーディネーター 古旗 真幸

(国立市公民館運営審議委員会)

ゲスト 山地 圭子/風間 頼高

(社会福祉法人多摩棕櫚亭協会)

箕井 素子/小林 葉子

(デイセンターたまぶらねつわ)

ところ 公民館 3階集会室

定員 25名

1987年に国立市で設立された「多摩棕櫚亭協会」は、精神しょうがいのある人が住み慣れた地域で暮らしていくことをめざし、生活支援から一般就労支援まで幅広い活動を行っています。一方、同じく国立市内で2009年に設立された「たまぶらねつわ」では昨年、デイセンター「わ」をオープンさせました。地域の方がコーヒーを飲みながらおしゃべりすることもあり、精神しょうがいのある人の日中活動の場となっています。

「働く」ことを通して、また、地域で支え合うことを通して、誰かとつながり暮らしていく—そんなテーマについて、一緒に考えてみませんか。

社会福祉法人・多摩棕櫚亭協会HP

<http://www.shuro.jp/>

非営利型一般社団法人・たまぶらねつわHP

<http://www.ta.biglobe.ne.jp/tanapula/>

〈青年陶芸講座〉

「喫茶わいがや」で使う コーヒーカップを作ろう！

講師 木村 富美枝 大野 博美

この講座は滝乃川学園の協力を得て、陶芸をしながら自分と同じ世代の方々と交流をして、公民館にある「喫茶わいがや」(しょうがいがある人もない人も共に喫茶店を運営する市民団体)のコーヒーカップを作ります。

※連続して作陶していきますので、定員を超えたら全回出席できる方を優先させていただきます。

とき 2月14日、28日、3月14日 昼1時～4時頃
全3回いずれも土曜日

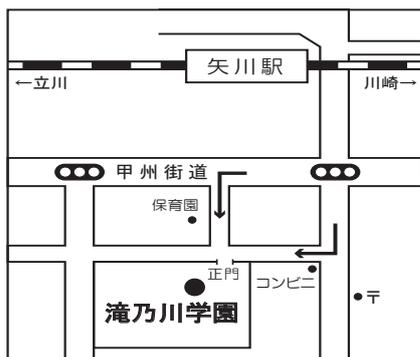
持ち物 上履き、エプロン、古タオル

ところ 滝乃川学園成人部作業棟 2階陶芸室

定員 15名(先着順)

申込先 2月8日(日)朝9時～

公民館 ☎ (572) 5141



■滝乃川学園までの地図



「HIBIKI Cafe」にて、第2分科会助言者・報告者の打ち合わせ風景



国立市公民館内の「喫茶わいがや」

〈環境講座〉

私たちのくらしとカビ

講師 浜田 信夫 (大阪市立自然史博物館外来研究員)

カビ。それは人類とともに生活してきたともいえる「生き物」です。浴室や洗濯機を見れば何度掃除しても生えてくるカビ。一方で私たちは醤油、味噌、日本酒など日本人に欠かせない食品をカビの発酵を利用して作っています。私たちはカビとどのように暮らせば良いのか？ カビとの付き合い方を一緒に考えてみませんか？

〈浜田さんの本〉

『人類とカビの歴史 闘いと共生と』(朝日選書)ほか

とき 2月22日(日)朝10時～12時

ところ 公民館 3階集会室

定員 30名(先着順)

申込先 2月10日(火)朝9時～

公民館☎(572)5141

地域史学習のこれからを考える①

地域史料から見た私たちの生活 —景観・町内・住民・祭事—

講師 齋藤 慎一 (元青梅市文化財審議会委員)

かつて全国各地では、地域史学習が盛んに行われてきました。埋もれた地域の歴史を掘り起こす魅力から次世代への地域文化の伝承、さらには地域アイデンティティの再形成といったように、学ぶ目的は実に様々です。市内でも地域の歴史文化を守り伝えていくために、長年にわたり活動を続けている団体が存在します。

そうしたなか、今、地域史をめぐっては、大きな局面を迎えています。学ぶ主体の後継者不足に加え、新しい住民の機会不足からおこる、地域文化の亡失。私たちは、先人たちが生きた証(あかし)であるさまざまな地域史料を、この先も守り伝えていけるのでしょうか。そのために何ができるのでしょうか。第一回目は、長年、多摩地域をフィールドに研究してこられた齋藤慎一さんを囲み、地域史料から見た私たちの現在の生活について考えてみたいと思います。

とき 2月28日(土)昼2時～4時

ところ 公民館 3階講座室

定員 30名(先着順)

申込先 2月7日(土)朝9時～

公民館☎(572)5141

〈図書室のつどい〉

佐藤泰志の文学

お話し 福岡 健二 (詩人、映画監督)

芥川賞や三島由紀夫賞の候補に挙がり、将来を期待されながらも1990年に41歳でこの世を去った作家・佐藤泰志。閉塞した時代の空気を捉え、そこに生きる人びとの心象を映し出した彼の小説が、いま再び注目されています。近年、連作短編『海炭市叙景』や長編『そのみにて光輝く』が映画化され、若い世代にも共感を呼んでいます。

生前、親交の深かった福岡健二さんは評伝のなかで、「佐藤泰志の小説の大きな魅力のひとつは、人と人の出会いの描き方にある」と述べています。

いまだからこそ響く佐藤泰志の世界。その文学と作家像に迫ります。

〈福岡さんの本〉『佐藤泰志 そこに彼はいた』(単著、河出書房新社)、『佐藤泰志——生の輝きを求めつづけた作家』(監修、河出書房新社)他多数。

とき 2月19日(木)夜7時～9時

ところ 公民館 3階講座室 定員 30名(当日先着順)

*ご自由においでください。

〈近現代史講座〉

歴史認識の 国際問題化を考える

講師 吉田 裕 (一橋大学)

近年の東アジア情勢は、政治レベルでの緊張が、国民感情にまで影響を及ぼす事態に陥っています。東アジアの平和構築のためには、私たち市民レベルにおける相互理解の促進が必須ではないでしょうか。講座をとおして、東アジア地域をめぐる問題を、身近な問題として捉えるきっかけにしたいと思います。

今回は、一橋大学で研究プロジェクト「『日韓相互認識』研究の深化・発展のために—東アジア情勢の中で—」の研究代表を務める吉田裕さんを迎え、お話を伺います。

〈吉田さんの本〉『アジア・太平洋戦争』(岩波新書)他多数。
※本講座は平成26・27年度の連続講座です。以降は、東アジア地域をめぐる様々な問題について、多角的に迫っていく予定です。

とき 3月13日(金)夜7時～9時

ところ 公民館 3階講座室

定員 30名(先着順)

申込先 2月13日(金)朝9時～

公民館☎(572)5141



監督 フェデリコ・フェリーニ 音楽 ニーノ・ロータ
出演 アンソニー・クイン、ジュリエッタ・マシーナ、
リチャード・ベイスハート ほか

わびしい浮草生活を送る粗暴な大道芸人ザンパノと、そんな彼を慕う、頭は少し弱いが純真な心を持つ女ジェルソミーナの哀しい別れを描いた、巨匠フェデリコ・フェリーニの名作中の名作。

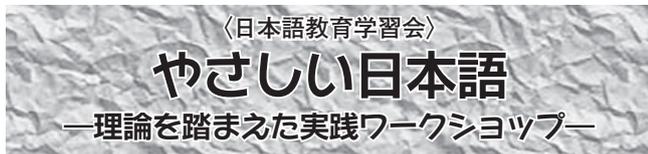
ニーノ・ロータの哀切きわまらないメロディーも胸を打つ。



〈シネマトーク〉
「フェリーニの女たち」

北里 宇一郎 (脚本家)

とき 2月22日(日) 昼2時~5時 (開場1時)
ところ 公民館 地下ホール 定員 85名(当日先着順)
*ご自由においでください。ただし、定員を超えた場合は入場を制限させていただきます。



講師 庵 功雄 (一橋大学・日本語教育)
志村 ゆかり (東京経済大学・日本語教育)

地域で日本語学習のサポートをしている方を対象にした、「やさしい日本語」の学習会です。

「やさしい日本語」とは、日本語を母語としない人にもわかるように配慮した簡易な日本語のことです。災害時の情報をよりわかりやすく伝えるための日本語として広まり、現在では公的な文書の「やさしい日本語」への書き換えでも注目されています。

今回は、「やさしい日本語」の考えに基づいた教授法を、理論と実践の両面から学びます。地域の日本語支援の場で使えるワザをうかがい、日々の活動に役立てましょう。

とき 2月15日(日) 昼2時~4時半

ところ 公民館 地下ホール

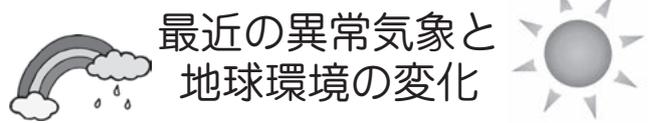
対象 地域で、日本語支援をしている方、したことがある方

定員 60名(先着順)

申込先 2月6日(金)朝9時~
公民館 ☎ (572) 5141



〈環境講座〉



講師 平井 信行(気象予報士、NHK気象キャスター)

最近の災害規模が大きい気象状況について、日本はもちろんのこと、地球規模でどのように変化してきているのでしょうか。気象による環境の変化が私たちの暮らしにどのように影響してきているのか、気象予報士の平井さんから話をうかがいます。



〈講師プロフィール〉1967年生まれ。気象予報士。

1996年4月~NHKテレビ気象キャスター(月~金曜日のNHK首都圏ネットワーク夜6時52分~他出演中)。執筆(「月刊公民館」連載)、講演等多数。

とき 3月1日(日) 朝10時~12時

ところ 公民館 地下ホール

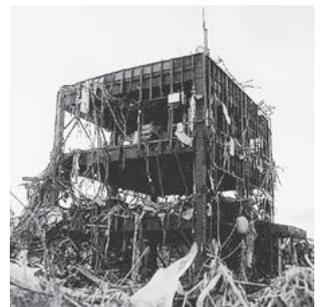
定員 85名(当日先着順)

*ご自由においでください。ただし、定員を超えた場合は入場を制限させていただきます。

〈ポスト3.11 社会のカタチ 私たちのオモイ 2015〉
— 3.11を忘れない・映画会 —
『生き抜く 南三陸町 人々の一年』

製作 大阪・毎日放送 2012年 99分
監督 森岡紀人

津波の襲来から28時間後、宮城県南三陸町に入った大阪・毎日放送のスタッフが、「絆」や「希望」という言葉だけでは表現できない被災者の素顔、生と死が混在し続ける被災地を1年間に渡り見つめ続けたドキュメンタリー映画。



東日本大震災から4年が経とうとしています。いま一度、震災の経験に学び、これからの社会と地域を考えていくために、今も被災地で取材を続けている大阪・毎日放送のスタッフのお話を上映後、伺いたいと思います。

お話 井本 里士(『生き抜く』プロデューサー)

とき 3月15日(日) 昼2時~5時

ところ 公民館 地下ホール 定員 60名(当日先着順)

*ご自由においでください。ただし、定員を超えた場合は入場を制限させていただきます。

テレビに宇宙人がやってきた!

初期ウルトラシリーズから迫る 「本格特撮テレビ映画」の正体

講師 ^{おがえり} 魚返 真央 (一橋大学大学院生*)

来る2020年の五輪開催地が東京に決定しました。

今から約半世紀前、1964年の東京五輪から生まれた流行語「ウルトラC」にちなんで命名され、1966年にテレビ放送された『ウルトラQ』は、日本初の本格特撮テレビ映画すなわち特撮を主役とするフィルム制作のテレビドラマでした。当時一世を風靡したテレビ映画とは、本格特撮テレビ映画の新しさとは、如何なるものだったのでしょうか。

初回は『ウルトラQ』の中から「2020年の挑戦」という名のまるで予言のような一話を徹底解剖し、第2回は『ウルトラQ』『ウルトラマン』『ウルトラセブン』を中心に、「地球」とテレビに来襲する宇宙人の系譜を辿りながらその問いに迫ります。

とき 3月14日、3月28日(全2回)
いずれも土曜日、昼2時~4時

ところ 公民館 3階講座室

定員 35名(先着順)

申込先 2月12日(木)朝9時~
公民館 ☎ (572) 5141

*一橋大学大学院生による講座

国立市内の一橋大学では、研究者を目指す大学院生が日夜研究に励んでいます。そこで公民館が架け橋となり、若手研究者と地域社会との交流講座を企画しました。最新の研究動向に触れるもよし! 修行中の院生にアドバイスするもよし! 院生が講師となって専門分野をご紹介します。

〈社会体育事業〉

「街を・山を歩く」第5回

日時 3月12日(木) ※雨天中止

集合 国立駅北口 朝9時

実施方面 八王子 城山方面

対象 市内在住、在勤者

チラシ 2月20日(金)から市役所3階生涯学習課、市民総合体育館、公民館、北・南市民プラザで配布します。

申込方法

日程、コース、申込方法等、チラシの内容を確認のうえ、2月23日(月)~3月6日(金)の期間に下記までお申し込みください。

申込・問合せ先

教育委員会 生涯学習課

社会教育・体育担当 ☎ (576) 2107 (直通)

LGBTを知る・考える映画とトーク

『カミングアウト』

2014年 98分

脚本・監督: 犬童一利

出演: 高橋直人 / 岡村優 / 夏緒 / 高山侑子 ほか

制作: REIZ INTERNATIONAL / LILY FILM

「世界がもし100人の村だったら、そのうち11人は同性愛者です。統計学的には2%から10%位とされています。多くの当事者はそれを隠しています。なぜでしょう」

—本編台詞より抜粋

映画『カミングアウト』は、ゲイの青年がカミングアウトするまでを描いた物語です。主人公は、理解者の後押しを受けながら、自分自身と向き合い、周囲にゲイであることを打ち明けます。登場人物は、みなさんの周りによくごく普通の若者たち。セクシュアルマイノリティの方が過ごしている日常を過飾せず、あるがままに切り取った作品です。

社会におけるLGBT(レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーの頭文字を繋げた略語)への理解・認識がまだまだ十分ではなく、深層に潜む偏見・差別意識が、当事者のカミングアウトへの妨げとなっている現状を、この映画を通して考えてみたいと思います。

本作品映画監督・犬童さんに、撮影秘話や日本のLGBTの現状・展望など、上映後に伺います。映画を観た後、あなたの価値観は変わっているかもしれません。

お話し 犬童 一利 (映画『カミングアウト』監督)

とき 3月6日(金)夜7時~9時半

ところ 公民館 地下ホール

定員 60名(当日先着順)

*ご自由においでください。ただし、定員を超えた場合は、入場を制限させていただきます。

〈親子で遊ぼう・考えよう〉

つくって飛ばそう! ロケット4機

ゴム、空気などロケットを様々な力で飛ばしてみましょーう! 今回は4つのロケットを作って飛ばしてみます。高く飛ばすには? 狙ったところに飛ばすには? 親子で工夫してチャレンジしてみよう!

講師 山田 修平

(NPO法人東京学芸大こども未来研究所)

とき 3月8日(日)朝10時~12時

ところ 公民館 地下ホール

定員 子ども(4歳~小学生3年生)と保護者
15組(先着順)

持ち物 飲み物、動きやすい服装

申込先 2月13日(金)朝9時~
公民館 ☎ (572) 5141

〈地域展開講座〉

地域を元気にする食と農の連携

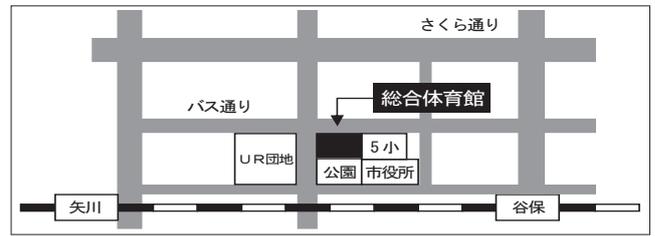
講師 大塚 洋一郎
(NPO法人農商工連携サポートセンター)

都会の中心、千代田区で『ちよだ青空市』『ホテ市』『ワテラスマルシェ』などの市場を運営して、「地方と都会」「食と農」を結ぶ事業を積極的に行う大塚さん。経済産業省大臣官房審議官として農商工等連携促進法の制定運用との携わりを契機に農業と接し、地域活性化には食農連携が極めて重要だと、安定した生活を捨てて55歳で農業支援のNPO法人を設立しました。

六次産業化、都市農村交流、都会のマルシェ販売、特産品開発など、地域を元気にする取り組みの話を伺ってみませんか。

〈大塚さんの本〉『そうだ、トマトを植えてみよう！ 地域を変える食と農』（ぎょうせい）

とき 2月28日(土) 昼2時～4時
ところ く に た ち 市 民 総 合 体 育 館 第1、2会議室
定員 30名(先着順)
申込先 2月6日(金) 朝9時～
公民館 ☎ (572) 5141



公民館運営審議会報告

1月13日(火) 第3回定例会を開催。委員15名、館長、職員1名が出席。傍聴1名。
前回の議事録確認

委員研修

大串隆吉氏(公運審委員・首都大学東京名誉教授)を講師に「社会教育とは何か」をお話しいただいた。①社会教育の必要性、②公民館の関わり方、③どのように関わってきたかを、具体的事例とビデオ映像を交えながら説明。

報告事項

○公民館だより編集研究委員会
1月号よりタイトルデザインを変更。作成したエッチンググループの紹介や、第14期の編集研究委

員会のまとめを掲載した。
○社会教育委員の会
12月16日(火)に定例会を開催。答申をまとめている段階。次回は1月20日(火)の予定。

○東京都公民館連絡協議会
第9回委員会(12月24日(水))

では、くにたち公民館だより・市民文化祭案内パンフレットなどを情報交換として紹介した。次回研修会は1月31日(土)の予定。
○館長より

①「国立市公民館図書室運営規則」の改正について説明あり。
②平成27年度に空調機器の入れ替えを中心とした公民館改修工事を計画。
次回は2月10日(火) 午後7時15分から。傍聴歓迎。(今村)

ひろば

(8ページにもあります)



新体道(しんたいどう) 国立

国立で棒術の稽古を始めました。六尺棒を思いっきり振り回して、スッキリしましょう！
小学五年生から、五十代まで楽しく稽古しています。

日時 月二回日曜日 夜6時半～
場所 主に福祉会館大ホール
連絡先 曾根田 090 (9150) 54115

太極拳友の会 会員募集

体育館で楽しくゆったりと、心と身体の健康増進と仲間づくりを一緒にいかがですか。初心者も大歓迎。一度見学、体験においでください。

日時 毎週水曜日午前または午後
場所 総合体育館
連絡先 浦岡 (575) 3272

「国立練功会」会員募集

気功体操と24式を中心に、初心者を対象として、楽しく太極拳をしています。初めての方でも安心して学べますので、是非体験してみてください！

日時 毎週火曜日朝10時～12時
場所 矢川集会所
連絡先 長谷川 090 (8303) 7254

ヨガサークル「つなぐ」募集

ストレッチや呼吸法を学んで心身共に健康な生活を手に入れませんか。インドで本格的なヨガを修得された先生がいていねいに教えて下さいます。

日時 毎月四回 土曜日から日曜日
場所 東防災センター
連絡先 前田 090 (9843) 4448

「フレンドランド」へようこそ！

やさしい童謡・唱歌・季節の歌をピアノに合わせて歌います。国立音大声学科卒、指導経験豊富な青木啓子先生と楽しく歌いましょう。連絡をお待ちしています。

日時 月一回 金曜日午前中
場所 公民館 音楽室
連絡先 新里 (577) 1062

グノーレクイエム合唱団員募集

くにたち市民合唱団では、3月から始める新曲の練習に参加して下さる方を募集中です。ゆっくり丁寧に練習しますので、初心者の方も、ふるってご参加ください。

日時 3月4日(水)夜6時半～
場所 芸小ホール 音楽練習室他
連絡先 川上 080 (6602) 7834

国立カラオケ愛好会 会員募集

キングレコードの坂本数馬先生のピアノによる指導で、毎月課題曲を楽しく歌っています。歌の好きな方、是非一緒に新曲等を歌いませんか？見学も大歓迎です。

日時 毎月第二・四(火)昼1時～
場所 公民館 音楽室
連絡先 前田 (573) 4765

空手道を通じて心身共に元気に、人生をより豊かにしよう。幼児から熟年迄、男女問わず、熱意ある人歓迎。市民大会から国際大会迄。気軽に電話下さい。
日時 毎週火・土・日 夕5時～
場所 本部道場(矢川駅約5分)
連絡先 佐伯 090 (7483) 4514

ひろば

(7ページにもあります)



郷土俳句会へのお誘い

「療」俳句会岡山祐子先生に指導戴き、ゆつくり俳句と向き合い会員による郷土の歴史行事に耳を傾けるのも有意義な時間となります。

日時 第二月曜日 昼1時
場所 郷土文化館 第一研修室
連絡先 加藤(576) 5752

言葉の集い

古典・近代文学を読む会です。といっても単なる読書会ではなく榎本講師が、内容・時代背景などていねいに解説してくれます。漱石・芭蕉・鴎外・柳田……

日時 月一回 午後
場所 公民館 3階講座室
連絡先 八覚(080) 4539

全国喫茶コーナー交流会 inくにたち・講演会

上智大学教授・小林章夫氏による基調講演「コーヒーハウス『近代』を造り上げた空間」など。資料代500円(手帳割引あり)。

日時 2月21日(土)朝10時半
場所 一橋大学国立西キャンパス 本館21教室
連絡先 兼松(090) 3422

今月の公民館 (2月、3月初)

*印は参加自由、他は事前申込みが必要です。

- 14日(土) 昼 青年陶芸講座
- 14日(土) 昼 NHK 学園高等学校共催 講演とシンポジウム
- 15日(日) 昼 やさしい日本語
- 19日(木) 夜 *図書室のつどい
- 21日(土) 昼 3つの講座同時開催 (* P2~P3)
- 22日(日) 朝 私たちのくらしとカビ
- 22日(日) 昼 *CINEVOX公民館シネマトーク
- 28日(土) 昼 地域を元気にする食と農の連携
- 28日(土) 昼 地域史料から見た私たちの生活
- 3月1日(日) 朝 *最近の異常気象と地球環境の変化
- 6日(金) 夜 * LGBTを知る・考える映画とトーク
- 8日(日) 朝 親子で遊ぼう・考えよう
- 13日(金) 夜 歴史認識の国際問題化について考える
- 14日(土) 昼 ~テレビに宇宙人がやってきた!
- 15日(日) 昼 *3.11を忘れない映画会

第199回くにしんぼクラブ フアラさんのイラン料理

お得意の家庭料理を教えてくださいませんか。材料費800円。ふきんとゴミ袋をご持参下さい。

日時 2月21日(土) 昼1時
場所 福祉会館 3階料理講習室
連絡先 八宮(571) 1007

憲法とわたしたち連続講座No.44

地方の時代と言われている今、日本国憲法第92条「地方自治の本旨」について学びます。講師は西川重則氏(ジャーナリスト)。多くの参加を望みます。資料代500円。

日時 2月28日(土) 昼3時~5時
場所 公民館 3階和室
連絡先 同実行委(574) 9210

パネルでみよう! 今さら聞けない「慰安婦」問題

なかったことにしているの? 昔のこと? いや、そうじゃない、私のこと! 証言や公文書の展示を見て考える。主催パネル展くにたち

日時 3月5日(木) 夕6時
3月8日(日) 夜10時まで
場所 公民館 1階ロビー
連絡先 担当石原(580) 2780

公民館図書室で借りられる資料が一〇冊になります!

公民館では、平成27年2月1日より図書室運営規則の一部を改正しました。図書室での貸出冊数が、図書館・郷土文化館資料と合わせて一〇冊以内に変更になります。また、利用カードの五年ごとの更新が必要となります。その際ご住所の確認をさせていただきます。

〈サークル訪問201〉 KUNIFA 日本語サポート

毎週火・水・木曜日に行われる公民館主催の『生活のための日本語講座』が終わると、待機していた日本語ボランティアが外国人の方々に一人または二人ついて楽しくその学習が1時間続きました。

KUNIFAは講座参加者のもつと日本語を学びたい、話したいという要望に応える活動をしています。今日初めて参加した中国人女性は、若いボランティア二人が訪れた広州とおいしかった屋台のスープの話に、一挙に親近感を覚えたようです。タイ人の女性は用意してもらった日本料理の写真を見ながら、おせち料理の作り方を教わっています。日本語理解が素晴らしいので驚きました。助けを借りながら講座テキストの復習をする方もいます。北京で日本語を学んだ女性は来日2か月、「おかげさまで楽しいです。またこれから勉強します」とお礼を言っていました。

土曜日は、留学生や仕事をもつ外国人と新聞を読んで考えを述べ合ったり、レポートの日本語表現の添削を行ったりします。

この会のスタートは1992年、代表の大熊ゆう子さんはサークル

歴10年になります。「外国人の方々が安心してできるように同じボランティアがついて、継続的な人間関係を作っています。そのため信頼感が生まれ、時に職場での悩み、子どもの教育相談を受けることもあります」とのこと。

最後に1年を振り返って参加者全員が話しました。「私はこの活動がとても楽しかったです。元気になるます」「市民文化祭の『日本語スピーチ大会』では、12名の学習者の自国自慢、日本での経験など内容が深く素晴らしかったし、歌と踊り、特技の披露、民族衣装も鮮やかでした」という言葉にボランティアの思いがあふれていました。

連絡先 大熊(575) 0946

y.johanna.ookuma@m2.dion.ne.jp

〈文・写真 三好紀子〉



人がつながる日本語学習